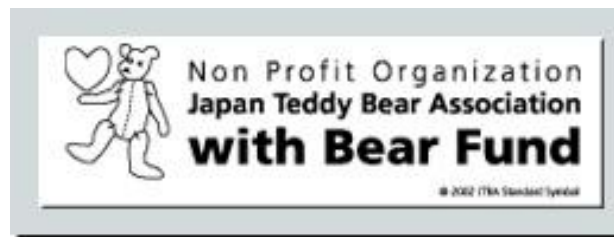


テディベア基金 活動レポート

WITH BEAR FUND テディベア基金



「第19回日本テディベア with Friends コンベンション」からスタートした、皆さまから寄せいただきましたご寄付をベアに替え、東日本大震災で被災した被災地の子ども達に贈る活動のレポートです。

2012年 クリスマス

今年も WBF 活動の一貫としてクリスマスに岩手県陸前高田市内の保育園の子ども達にテディベアを寄付しました。

◇横田保育園

園長先生のコメント

テディベア協会 様

昨年も素敵なテディベアを頂きありがとうございました。子ども達も去年よりますますパワーアップして、運動会や発表会に参加し、畑では野菜をたっぷり作ってモリモリ食べ元気にすごしております。被災したことをまだ忘れてはいないと思うのですが、私たち（大人）に笑いと癒しをくれる子供達です。その子たちのため職員もがんばりま〜す。

横田保育園



◇下矢作保育園

園長先生のコメント

クリスマスプレゼントとしてテディベアを子ども達にサンタさんから渡していただきました。

昨年度は、定員30名の下矢作保育園に被災した保育園の子ども達たちが入所して55名の園児と一緒に生活をしました。事務所だった部屋を保育室にして少しでも子ども達の負担を少なくするなどして一年を過ごしました。被災した保育園が4月から仮設で再開できたので、また小さな下矢作保育園に戻りました。25日クリスマスプレゼントとしてテディベアのお友達を頂いて、子ども達ととてもうれしそうに抱え持ち帰りました。

子ども達に笑顔を、ありがとうございました。

下矢作保育園 熊谷



◇大久保幼稚園 2012 6月19日 日立市

今回訪問したのは茨城兼日立市にある、大久保幼稚園。

園児 76 名。敷地面積 4600 平米 広い園庭には築山があり都会っ子にとってはうらやましい限り。

昨年の東日本大震災では、東北の被害が多く報道されているが、関東の太平洋沿岸にも多大な被害を受けている。東北地方以外でも未だに苦しみの中にある地域があることを皆さんにも知って戴きたく、昨年も御世話になった元日本ユニバ支援チームメンバーの吉田浩美氏が新たに被災地の起業支援活動を行っていることから、ご紹介戴いた。

寄付の為のテディベアを車から降ろし、まずは職員室で授与式の打合せ。



広い遊戯室にこの日登園している 75 人の園児が勢揃い。岡部和子園長から子ども達に挨拶と共に、「日本テディベア協会から皆さんにプレゼントがありますさあ何でしょう？」と一声かかると、皆口々に「テディベア！」「熊さん！」と声が上がった。その後 「テディベア協会の正田さんが来てくれてますのでお話を聞きましょう」と紹介くださり、協会代表としてご挨拶申し上げた。

「皆さんが頑張っているの、皆さんにテディベアを持ってきました。みんながもらったらまずは名前

を付けて上げてください。それとお誕生日を決めて下さい。お名前がついたら、かわいがって上げて下さいね。仲良く出来る人！？」園児達から一斉に「はい」という元気な答えが返ってきた。

セレモニーは続き、園児達からの歌のプレゼントがあった。2 曲も歌ってもらい、一所に口ずさんだ。最後に園児全員との記念撮影をした。

授与式の後、園長から話をお聞きした。昨年夏、元園長であったご主人を急病で亡くされ、震災からの復旧も終わっていない状態で園長になられた岡部園長は 2 頭のポニーの世話をしながら園の運営に奮闘されている。

建物の復旧が今年に入ってようやく完了したが、放射能を帯びた土砂が園内に残っており、砂場も未だに放射線量が高く、子ども達は砂遊びができないでいる。

1 日でも早く子ども達が安心して遊べる環境になって欲しいと願いつつ、園を後にした。＜正田＞



2011 年 クリスマス

WBF 活動の一貫としてクリスマスにも福島県いわき市の子供達にテディベアを寄付しました。
子供たちにとても喜んでもらったようで、その様子は私たちにもパワーをもたらしてくれます。
お言葉と写真が届いてますので、ご紹介します。

◇西郷保育園

子供達の生き生きとした表情を捉えた写真を送っていただきました。



◇しらかば保育園

東日本大震災大津波に係わるご支援について（御礼）

「東日本大震災から9ヶ月、年の瀬を迎え寒い季節となりました。
過日は復興の思いがこもった品をとどけていただき、誠にありがとうございました。少しずつ子供達の笑顔がもどり、元気に園生活を送っております。

地区では、仮設住宅の入居、がれきの撤去作業等厳しい状況ですが、
園では教育環境の見直しが多少ありますが、落ち着いてきました。

皆さんの温かい心遣いご配慮によるものと感謝しているところです。厚く御礼申し上げます。

子供達の様子を伝えようと写真をお送りします。



◇白水のぞみ保育園

クリスマスにふかふかのテディベアが届きました。

これから一人ひとりの子どもに園長先生から手渡してもらうところです。

武 園長先生より

タイムリーにクリスマスにテディベアのプレゼントが届きました。

子どもたちは、大喜びでした。ありがとうございました。



いわき市でボランティア活動をしている 日本ユニバーサルデザイン研究機構災害救援活動部門の
小針丈幸いわき支部長の案内で、いわき市内の3つの保育園を訪問しました。

10月17日

◇大倉保育園 (191名)

保育園の建物自体が震災に見舞われ、一部が隆起し立ち入り現在も禁止
区域があるほど。震災から3ヶ月は、近隣の避難所になっており、保育
業務を行いながら、毎日炊き出しをされていた。

現在191名の園児が在席し、子供達は元気に遊んでいる。

園児全員分のベアを用意し、園内ホールにて園長からテディベア協会と

森井理事長・私（正田）をご紹介
介戴き、理事長からの挨拶の後、
一人ずつに手渡しする形で授与
式が行われた。

1列に並んだ子供達は、満面の笑みで理事長からベアを受け取る
と、すぐに大事そうに抱え、そのベアの感触を楽しんでいた。

全員に配られる頃には、ホールは子供達の歓声で先生の 声はかき
消されていた。

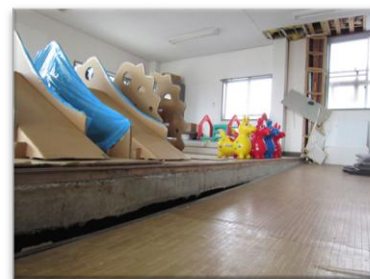
驚いたのは、男の子の嬉しそうな様子。しっかりと抱きしめ、大切な何
かを手に入れたようであった。

何度も何度も全員からお礼を言われ、「家に帰れば、たくさんのおもち
やがある現代の子供達にテディベアで喜んでもらえるのだろうか？」と
いう不安は一掃された。

しかし、誰より嬉しそうなのは、保育士の皆さん。子供達の笑顔の為に
働く皆 さんにとって、今日の出来事がどれだけ大きな力になったか。
その大きさが笑顔となって伝わってきた。



施設内



◇のびのび園 （35名）

今回、回った中で、最も園長の思いを強く感じた保育園。
前もってお送りしてあったベアは到着直前に園児全員に配られ、
車が園の前に到着するやいなや、ベアを持った笑顔と元気が溢れた
子供達が全員で出迎えてくれた。

園内に入ると、森井理事長も正田理事も子供達に囲まれもみくちゃ。
これほど までの笑顔に囲まれたのは、多分生まれて初めての
こと。園長と保育士の皆さんがやっとのことで子供達に並んでも
らい、園長からご挨拶・続いて森井理事長から挨拶、さらに私から挨拶。

「皆さん！自分のベアに名前をつけて歳も決めて上げてくださいね」「はい！」

「みんな、テディベアと仲良くしてくれますか？」「はい！」

元気な子供達とのやりとりをして、部屋に戻るよう言われた子供達のはずが、なかなか理事長達から離
れない。保育士の先生に諭れて、ようやく部屋に戻っていった。そのあと、園長と部屋で少々対談。

テディベア自体をご存じなかった園長は、「これからテディベア
について勉強し、子供達に伝えます」と嬉しいコメントを下さっ
た。「嬉しいことをして戴いたら、嬉しいことでお返りするよう
日頃から子供達に 話しているんです。ですから今回のことも、
将来 他の人に恩返しできるよう話します」と、うれしさを抑え
られない様子で、語って下さった。

テディベアのすばらしさを広めることができた。



◇船尾保育園 （125名）

放射線量の多さから屋外での遊戯は1日30分と決められており、子供達は我慢
の毎日を 送っている。

そこにテディベアのプレゼントとなったために、こちらも笑顔が溢れている。
園児代表に手渡し、その後に酒井秀子園長と対談。早い方では父兄の方が迎え
に来られる時間になり、一人のお母さんが大変恐縮されながらも喜んでおられた。
この保育園では、経費削減のために、放射性物質除去のための洗浄作業を職員で
行っている。各保育園で「自分にできること」を懸命になさっている。移動途中、

小名浜工業団地付近通過時に、放射線量22マイクロシ
ーベルトを放射線計が表示していた。船尾保育園にて
小針支部長さんと別れ、14時過ぎにいわき市から岩手
県釜石市を 目指して400kmの移動を行った。途中被
災復興道路工事のため渋滞を抜け、19時30分釜石市
に到着。ボランティア活動を応援しておられる古民家
宿泊施設コスモスに宿泊した。



10月18日

◇釜石市内 被災地区

釜石復興の風プロジェクト 福成菜穂子さんの案内で、被災した市内を30分ほど視察。

ニュースでは見ていたが、震災の影響は釜石駅を境に、海側は壊滅状態。場所によっては土台を残して綺麗に除去されているが、まだまだ撤去作業は続いている。



◇釜石福祉センター

子供課が新設された福祉センターに移動し、釜石市保健福祉部子ども課にて授与式。

受けて下さったのは、高橋千代子課長補佐兼次世代育成係長。

ベアを手取るなり、「かわいい」と絶賛。職員の方々が喜んでおられた。

◇釜石保育園

被災地区で建物が流され、甲子町に移転し継続してる保育園。

教室で授与式。園児代表者に手渡し。

これにて贈呈を終了し、その日に帰京。

なお、釜石市では合計150体を市内の保育園に5-10個ずつ贈呈する。贈呈は、釜石復興の風プロジェクト福成菜穂子さんが行って下さり、写真と共に報告を下さる。

いわき市では、351個を3保育園の園児全員に贈呈した。



今回、ご助力をいただきました日本ユニバいわき支部の小針様よりこの度はいわきの為にご支援いただき誠にありがとうございます。放射能の影響で外で遊ぶ事が制限されている子供達にとって テディベアと一緒にいることで、きっと室内でも楽しい時間を過ごす事ができる事と思います。またテディベアと楽しく遊ぶ子供達を見て、大人達もホッとした気持ちになり、日頃の不安を和らげる一助にもなる事でしょう。



2010 年

◇WBF ティンクルベア 埼玉県立小児医療センターに寄付

2010 年 2 月 19 日

筑波大、東大に続いて 80 体のティディベアを埼玉県立小児医療センターに寄付しました。

このセンターは一般医療機関では対応困難な疾患を持つ子どもたちの治療を中心として行っています。300 床のベッドに対して 80 体のベアは少なかったのですが、今回も企業からの寄付が集まらず、協会の正田理事（ヤマト屋代表取締役）から提供された資金で賄いました。

WBF（協会基金）への一般企業からの寄付が集まれば、より多くの病院と子どもたちに

ティディベアを提供して治療の促進に役立ててもらえます。

チャンスがありましたら、ぜひ周囲の方々にお声をかけてみて下さい。
これもボランティア活動の大切な一環です。



2009 年

◇WB Fティンクルベア東大医学部附属病院に寄付

2009 年 10 月 9 日



今回の東大医学部附属病院への寄付は、WB Fの体制が整ったにもかかわらず、世界的不況のため寄付が集まらないのを危惧して、正田理事（株・ヤマトヤ社長）が率先して資金の提供を申し出て下さったので実現したものです。

10月9日、東大を訪問しました。朝10時、プレイルームにドクターや看護師さんが集まりました。そこ

へ入院中の2人のお子さんがお母さんと看護師さんに伴われて現れました。森井理事長と正田理事（株ヤマトヤ社長）が手にしたベアを子どもたちに差し出すと、子どもたちの目にうれしそうな光があふれました。

小児科ドクター菊地陽准教授から次のようなごあいさつがあり



ました。「入院して

いる子どもたちは毎日変化の乏しい生活を強いられています。そのような日々に今回のベアのプレゼントは、とても嬉しい出来事として心に残るはずです。きっと病気の治癒に良い効果をもたらすと思います。どうぞ他の病院にも（寄付を）広げて行って下さい」。

提供した100体のベアは、看護師さんたちによって順次入院中の子どもたちにプレゼントされることになっています。



集合写真

写真左から

井田 孔明 入院診療担当副科長

正田 誠 株ヤマトヤ社長・協会理事

菊地 陽 准教授

森井 理事長

柘植 美恵 南病棟看護師長

塚野 和代 北病棟看護師長

内田 協会理事



テディベア基金設立から 2007 年まで

2002年7月 with Bear Fund テディベア基金の設立

テディベア誕生100周年を記念して、「テディベアをともなったボランティア活動」を推進するためにWBFを設立し、その最初のテーマとして「入院中の子どもたちにベアを抱かせる」を取り上げました。そのためには入院中の子どもたちにとって、ベアがよい効果をもたらすことを世間に知ってもらうことが大切だと考えました。

2003年3月 宮本信也筑波大学教授を訪問

JSPFのメンバーである、宮本先生の研究室を協会スタッフが訪問して、「入院中の子どもたちへのベア効果」の研究をお願いしました。

2003年5月

宮本先生に市販されている、材質と形態の違う10体のテディベアを送り、筑波大附属病院と自治医大附属病院の先生方に「ベアが治療に役立つと考えるか？」のアンケート調査を実施しました。

その結果、78%の先生方が「よいと考える」と回答すると同時に「ベアの材料」が問題となりました。ベアにつくダニや雑菌及び感染症などが懸念されるためです。

その後、協所属企業と試行錯誤を重ねた結果、光触媒生地を使ったベアの制作に至りました。宮本先生にもチェックしていただいた結果、このベアなら入院中の子どもでも抱かせることが出来るとの感触を得ました。

2004年6月第12回コンベンションで「ヒーリングベア」展



個人出展者の協力を得て光触媒生地(株サンセイ提供)によるヒーリングベア180体を制作展示しました。このベアを使って研究していただくために筑波大学に寄付しました。

2007年4月 研究開始

そして、遂に「テディベアの癒し効果」の研究が始まりました。

2007年4月 12 日 子どもたちにベアをプレゼント



宮本先生を始めとして、研究グループのお医者さん、看護師さん、大学院生たちが見守るなか、筑波大学付属病院に入院中の子どもたち全員にテディベアがプレゼントされました。

日本テディベア協会スタッフとテディベアタイムズジャパンのスタッフも同席させていただきました。看護師さんが、たくさんのベアをワゴンに乗せてベッドに近づくと、子どもたちの表情が変わります。「どれでも好きなベアを選んでいいのよ」と声をかけられても、なかなか選べずに迷っている子もいます。傍でつきそいのお母さんが、「これはどう？」とアドバイスしても決まりません。ついに決心してひとつのベアを抱き上げましたが、それはお母さんのお好みとは違うベアでした。ちょっと残念そうなお母さんの横で、子どもはもうベアに向き合っています。その様子を観察しながら数人の研究スタッフが手にしたボードに記録して行きます。

別れ際に看護師さんが言いました。

「テディベアによって、子どもたちばかりではなく、つきそいのお母さんも癒されます。わたしたちも欲しいくらいです。研究に協力できてうれしいです」

「テディベアの癒し効果」研究

実施場所：筑波大学附属病院小児病棟（E600）

テディベア配布：平成19年4月12日（木）15時に入院中の子どもを対象

研究グループの先生方：

宮本信也 教授 小畑文也 准教授

福島 敬 講師 山元照美 病棟看護師長 他

コラム「宮本信也先生にインタビュー」平成19年4月12日（木）



私はもともと小児科の医者です。専門領域は発達行動小児科学とい
います。心に問題をもっている子どもたちに小児科の分野で対応する
のです。

テディベアを子ども達にあげて不安を和らげる、その効果を見ると
いうことは、我々の考え方、領域の内です。

テディベアを子どもにあげると、もちろん、子ども達は喜ぶでしょ
う。ただそれだけでも良いのですが、いただいたベアを拝見しました

ら、ひとつひとつに作って下さった方の名前が付いている。それに病院内でリスクが少ないようにベアの
材質を考えて下さっている。この熱意を考えるとわたくしたちの方でも、外に出して納得が得られるよう
な何らかの結果を出したいと考えました。心の研究をされている専門の先生方とも研究の方法を相談しま
した。

その結果、ありのままの変化を観察する、フィールドワークという文化人類学で用いられている方法を
採用した研究デザインを組むことにしました。

医師や大学院の学生など、大勢が観察しながら記録していく方法です。両親の協力を得た子どもたちだ
けを別室で撮影をすることも計画しています。

調査研究は2回に分けて行う予定を組んでいます。

今回はトライアルとし、本実験は2回目と考えて成果を高める計画です。

1回目の結果は、コンベンションの会場で発表させていただければと思っています。

調査研究が全て終了しましたら、学会などでの発表も視野に入れておりますので、協会で一般公開され
るのは、その後にお願いできればと思っています。

※研究内容は別PDFに収録してあります。

テディベア基金設立まで

１９９５年１月 阪神淡路大震災発生

日本テディベア協会では、リンダ・マリンズさんに協力を仰いで世界中からテディベアを集め、被災者に贈りました。それと同時にリンダさんが世界中のテディベアアーティストに呼びかけて制作された99体のベアのオークションを企画しました。この寄付先を検討した結果、「日本小児精神医学研究会（ＪＳＰＰ）」の先生方がボランティアで被災児の治療に当たっているのを知って、この団体に落札総額２２００万円を寄付することに決めました。



１９９５年５月 被災地の保育園訪問

被災した子どもたちのために世界中から送られてきたベアのうちから、２００体をバッグに詰めて、協会スタッフがリンダ・マリンズ夫妻などとともに神戸市長田区の保育園を訪問しました。お世話下さったのはＪＳＰＰの先生方でした。

リンダさんが、子どもたちひとりひとりにベアを手渡した時、それまで表情が乏しかった子どもたちの目が一斉に輝き、顔いっぱいに笑みがひろがりました。その光景を見た時にベアが癒しにつながることを確信しました。

そこで入院している子どもたちにベアを贈ることを企画しました。

しかし病院に普通のベアを寄付しても、ダニや感染症などが心配なため、待合室の受付に飾られて、ベッドに寝ている子どもの手元には届かない事実直面しました。

入院中の子どもたちにベアを抱かせるにはどうしたら良いかが課題となりました。